

# 第18回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成28年1月14日(木)

# 参加者の名様へ

- 各テーブルに、名札を準備しました。  
『所属(事業所名)』『職種』『名前』をお書きください。
- 名札を同じテーブルの方からよく見える高さでつけてください。
- お帰りの際は、受付にお戻しください。  
～お互いの顔と名前を知り合って、  
さらに交流を深めましょう！～

# 交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
  - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 誤嚥性肺炎は口腔ケアで減少する。
- 訪問診療の相談は県歯科医師会にするとよい
- 利用者の口の中を見る機会が少ない。口のアセスメントが必要。また周囲の方（家族等）のサポートも必要。
- 歯茎ケアの大切さ。歯ブラシの種類を知り工夫も必要。

- 口腔ケアの必要性を伝えるが、なかなか続かない
- 訪問診療の難しさ
- かかりつけ歯科医の必要性
- 介護保険申請時にかかりつけ歯科医をもつことを伝えるなどが必要では
- 高齢者の方はなかなか口腔内をみせてくれない。

- 歯科受診は最後になってしまう。高齢になると受診の必要性を感じていないこともある。口腔の状態が全身状態に影響すること、受診の必要性に対する啓発が必要
- 認知症の方への対応は人それぞれ。時間をかけて口を開けてもらうようにしたり診察台には移動せずに車いすのまま診察することもある。

- 依頼があれば訪問する、と歯科医師の方も言ってくれている。道具がたくさん必要であるため、訪問前に情報があるとよい。
- 在宅のケアのなかで歯・口腔に関しては後回しになってしまうことが多いのでは。
- 歯科にも送迎があればよいのでは。
- 歯科治療も事だが口腔ケアはとても大事。

- 施設歯科訪問は一か月に1回。日々のケアは施設の看護師等がフォロー。
- 訪問介護をしてもなかなか口腔ケアまで手が届いていない現状がある。
- 歯科衛生士の数が少ない
- 歯科衛生士だけが訪問することはできない。まず歯科医が訪問診察しその指示で衛生士が訪問することになる。



- 治療に関して家族とのコミュニケーション大切
- 歯科でのセカンドオピニオンの必要性は。
- 訪問診療で多い治療は入れ歯の作成・調整
- 車いすの方の場合、場合によっては車いすのままでの治療可能なところもある。
- 高齢者の口腔内については無関心だった
- 訪問診療の方の対象はどのレベルまでが対応可能なのか知りたい。
- 口腔ケアが必要な方の対応は誰がするのか

- 医療の現場で、歯に関して相談された場合、どこに相談すればよいのか。  
→ケアマネや訪問可能な歯科医への相談
- 認知症の方で、将来を見据えて口腔内の治療をしているが、家族での口腔ケア対応が難しい場合、どうすればいいのか。
- ケアマネやかかりつけ歯科医等とチームになってサポートしていく必要性がある。

- 高齢者が増えていく、認知症の方が増えていく。早めの対策が必要
- 歯に関する意識が低いいため予防意識も低い
- 歯の欠損がある場合、義歯を作成するより、食事形態を変更されるケースもある。しかし、咬み応えのあるものをいつまでも自分で咬めるような口腔の状態を作りたいと思う。
- あらゆる職種から声掛けを行うと良い。歯科受診、口腔に関心を高めてもらえると良い。